

京都市市民憲章推進者表彰

個人16名、2団体を市長表彰

【推進テーマ】

文化の都・京都から、日本の心を世界に伝えよう

市では、市民憲章を率先して実行し、かつ、毎年の推進テーマと実践目標に基づいて推進活動を行い、特に市民の規範と認められる方々を表彰しています。

6月15日、平成28年度京都市市民憲章推進者表彰式典が行われ、山科区からは個人16名、2団体の皆様が門川市長から表彰を受けられました。

【山科区被表彰者名(学区名)】

(活動別・順不同)

個人

●福祉活動

長谷川 千代美さん(勤修)

小川 孝子さん(鏡山)

岩佐 敏子さん(山階南)

山田 正雄さん(西野)

●美化活動

舟楓 昭子さん(小野)

●スポーツ活動

柴田 勝子さん(勤修)

大久保 和夫さん(音羽)

●安心・安全なまちづくり活動

當野 晃司さん(音羽)

宮本 法雄さん(陵ヶ岡)

針口 恵治さん(大宅)

【団体】

●美化活動

さんかい南部会 (山階)

●観光関係

観光関係 (山階)

●伝統芸能

担当(☎592-3086)



地域消防最前線 火気の取り扱いにご用心！

夏祭りや地蔵盆、バーベキューなどが楽しい季節です。夏のイベントをご町内やご家族の楽しい思い出にするため、次のとおり火気の取り扱いに気を付けましょう。

夏祭り・地蔵盆などで模擬店を出店する際の注意点



- 必ず消火器を準備しましょう
- LPガスのボンベは、転倒しないよう固定し、火気から離して使用しましょう
- 1枚の鉄板を2台のカセットコンロで加熱しない
- 小規模(町内会程度)の催しを除き模擬店の出店には消防署への届出が必要です！

バーベキューの際の注意点



- チューブに入った着火剤を継ぎ足して使用しない
- 炭を火気の近くに置かず、残りの処理をしっかりと行いましょう

●問い合わせ先／山科消防署(☎592-9755)

ハチの巣を見つけたら

暑くなってくるとハチが活動的になってきます。ハチの巣でお困りの場合は、ハチの巣の状況を確認し、次のとおり冷静な対処をお願いします。

●スズメバチの巣を見つけた場合

巣に近寄るだけで攻撃してることがあります。近寄らず、問い合わせ先にご連絡ください。業者に駆除を依頼します。

●アシナガバチの巣を見つけた場合

駆除はご自身で行ってください。

【駆除方法】①夜間に静かに

近寄らず、問い合わせ先にご連絡ください。業者に駆除を依頼します。

●アシナガバチの巣を見つけた場合

駆除はご自身で行ってください。

【駆除方法】①夜間に静かに

近寄らず、問い合わせ先にご連絡ください。業者に駆除を依頼します。

●アシナガバチの巣を見つけた場合

駆除はご自身で行ってください。

【駆除方法】①夜間に静かに

近寄らず、問い合わせ先にご連絡ください。業者に駆除を依頼します。

●アシナガバチの巣を見つけた場合

駆除はご自身で行ってください。

【駆除方法】①夜間に静かに

近寄らず、問い合わせ先にご連絡ください。業者に駆除を依頼します。

●アシナガバチの巣を見つけた場合

駆除はご自身で行ってください。



スズメバチの巣



アシナガバチの巣



夏の交通事故防止市民運動

7月21日(木)～8月20日(土)

歩行者を

気遣うやさしさ

京の夏

運動重点

- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 自転車の安全な利用の推進
- 暴走行為等危険運転の追放
- 夕暮れ時・夜間の歩行中の交通事故防止(反射材用品等の着用の促進)



緊急時にはこの「安否確認対応グッズ」を持って駆けつけます。

安祥寺中 学区区内の 学区社協、民生児童委員

区総務・防災担当(☎592-3066) かぎ預かりモデル事業実行委員会事務局(☎583-58833)

山階地域包括支援センターの森下さんにお話を伺いました。これまで高齢者宅を訪問する中でも「鍵を預かってくれないか」という相談は受けていました。しかし、ヘルパーやケアマネジャーなどが個人で預かるわけにはいきません。そこで、すでに「かぎ預かり事業」を実施している寝屋川市の事例を私たちの地域でもできないかと話し合ってきました。

安祥寺中 学区区内の 学区社協、民生児童委員

この事業をきっかけに、見守りが必要な人を発見し、見守る側の協力体制も強まる。そんな印象を受けた取り組みです。京都市内でも高齢化率が2番目の山科区。区内全体に取り組みが広がればいいですね。(京都市まちづくりアドバイザー 佐藤友二)

●問い合わせ先

区総務・防災担当(☎592-3066) かぎ預かりモデル事業実行委員会事務局(☎583-58833)

近年、孤独死が地域で問題になっています。特に問題になるのは一人暮らしの高齢者宅。「新聞や郵便物がポストにたまっている」「洗濯物が何日も干しっぱなしになっている」などの状況を近所の人が見つけて心配しても、鍵がかかっているのは家の中を確認することはできません。もし倒れて助けが呼べない状態であつたら、発見が遅れ命に関わるかもしれません。

山科の安来・山階・西野地域では、日ごろから高齢者の見守り・支援をしている地域役員や関係機関が相談して、事前に高齢者宅の玄関の鍵を預かって、様子がおかしいと思われる時に鍵を使って家屋内に入り安否を確認するという仕組みを始めています。

この事業の事務局を担っている山階地域包括支援センターの森下さんにお話を伺いました。これまで高齢者宅を訪問する中でも「鍵を預かってくれないか」という相談は受けていました。しかし、ヘルパーやケアマネジャーなどが個人で預かるわけにはいきません。そこで、すでに「かぎ預かり事業」を実施している寝屋川市の事例を私たちの地域でもできないかと話し合ってきました。

安祥寺中 学区区内の 学区社協、民生児童委員

この事業をきっかけに、見守りが必要な人を発見し、見守る側の協力体制も強まる。そんな印象を受けた取り組みです。京都市内でも高齢化率が2番目の山科区。区内全体に取り組みが広がればいいですね。(京都市まちづくりアドバイザー 佐藤友二)

●問い合わせ先

区総務・防災担当(☎592-3066) かぎ預かりモデル事業実行委員会事務局(☎583-58833)

預けて安心！

緊急時安否確認

かぎ預かりモデル事業

(山科、きすな、支援事業補助金交付事業)

第43回 みんなで「第2期山科区基本計画」に取り組もう！
区民活動きずなリレー

